



## 2022年11月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年7月7日

上場会社名 キューピー株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2809 URL <https://www.kewpie.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 高宮 満  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営推進本部長 (氏名) 北川 岳史 TEL 03-3486-3331  
 四半期報告書提出予定日 2022年7月15日 配当支払開始予定日 2022年8月8日

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2022年11月期第2四半期の連結業績（2021年12月1日～2022年5月31日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年11月期第2四半期	207,523	4.3	14,241	△1.8	14,964	△1.4	8,889	△7.6
2021年11月期第2四半期	198,879	△24.4	14,499	29.5	15,183	33.4	9,621	70.5

（注）包括利益 2022年11月期第2四半期 14,223百万円（2.3%） 2021年11月期第2四半期 13,907百万円（92.3%）

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年11月期第2四半期	63.95	—
2021年11月期第2四半期	67.86	—

（注）2021年11月期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2021年11月期第2四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年11月期第2四半期	381,068	279,564	66.6
2021年11月期	381,003	269,301	64.5

（参考）自己資本 2022年11月期第2四半期 253,835百万円 2021年11月期 245,640百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年11月期	—	20.00	—	27.00	47.00
2022年11月期	—	20.00	—	—	—
2022年11月期（予想）	—	—	—	27.00	47.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2022年11月期の連結業績予想（2021年12月1日～2022年11月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	430,000	5.6	26,000	△7.0	27,700	△6.7	15,700	△12.8	112.95

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2022年11月期2Q	141,500,000 株	2021年11月期	141,500,000 株
2022年11月期2Q	2,495,661 株	2021年11月期	2,495,090 株
2022年11月期2Q	139,004,595 株	2021年11月期2Q	141,790,861 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表および主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書および四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(企業結合等関係)	10
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における当社グループは、新型コロナウイルス感染症や国際的な穀物相場高騰による原料価格の上昇などの影響を受ける中、国内では市場担当制を活かしお客様の多様化するニーズに対応するとともに原料相場に左右されない強い体質への転換に取り組んでいます。海外では、中国・東南アジア・北米を中心に、それぞれの地域の食文化への浸透を加速させ、成長ドライバーとして拡大を進めています。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、海外での売上伸長に加え、業務用での外食需要減少影響が前年度より回復したことにより増収となりました。営業利益は、売上増加や価格改定効果があったものの主原料高騰等による影響を受け減益となりました。経常利益は営業利益の減少により減益、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年度に計上した生産再編に伴う資産売却益の減少などにより減益となりました。

当第2四半期連結累計期間の連結業績は次のとおりです。

(単位：百万円)

	前第2四半期 (自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)	当第2四半期 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	増減 (金額)	増減 (比率)
売上高	198,879	207,523	8,644	4.3%
営業利益	14,499	14,241	△258	△1.8%
経常利益	15,183	14,964	△219	△1.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9,621	8,889	△732	△7.6%

(注) 2021年11月期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前第2四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

## ◇ セグメント別の状況

[売上高の内訳]

(単位：百万円)

	前第2四半期 (自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)	当第2四半期 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	増減 (金額)	増減 (比率)
市販用	86,016	85,691	△325	△0.4%
業務用	72,422	75,889	3,467	4.8%
海外	24,738	29,819	5,081	20.5%
フルーツ ソリューション	8,624	8,404	△220	△2.6%
ファインケミカル	4,351	5,048	697	16.0%
共通	2,726	2,670	△56	△2.1%
合計	198,879	207,523	8,644	4.3%

[営業利益の内訳]

(単位：百万円)

	前第2四半期 (自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)	当第2四半期 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	増減 (金額)	増減 (比率)
市販用	9,728	7,444	△2,284	△23.5%
業務用	2,677	4,137	1,460	54.5%
海外	3,706	4,097	391	10.6%
フルーツ ソリューション	393	275	△118	△30.0%
ファインケミカル	87	505	418	480.5%
共通	645	673	28	4.3%
全社費用	△2,740	△2,892	△152	—
合計	14,499	14,241	△258	△1.8%

<市販用>

- ・惣菜やカット野菜は堅調に推移したが、価格改定により調味料の需要が減少し減収
- ・主原料高騰による影響を受け減益

<業務用>

- ・新型コロナウイルス感染症拡大による外食需要減少影響が前年度より回復し増収
- ・主原料高騰等による影響を受けたものの、価格改定効果や付加価値品の伸長により増益

<海外>

- ・東南アジアや北米が好調に推移し増収
- ・主原料高騰による影響を受けたものの、売上増加や付加価値品の伸長により増益

<フルーツ ソリューション>

- ・家庭用ジャム・スプレッドの価格改定と需要喚起策を進めたものの、前年の内食需要の反動もあり減収減益

<ファインケミカル>

- ・ヒアルロン酸の原料販売や通信販売が好調に推移し増収増益

<共通>

- ・食品メーカー向け製造機械の販売減少により減収となったが、売上総利益の改善などにより増益

(2) 財政状態に関する説明

◇ 総資産、負債、純資産の状況

- ・総資産は、3,810億68百万円と前連結会計年度末に比べ65百万円増加  
主に現金及び預金の減少、受取手形及び売掛金、商品及び製品、原材料及び貯蔵品の増加による
- ・負債は、1,015億4百万円と前連結会計年度末に比べ101億98百万円減少  
主に支払手形及び買掛金の増加、短期借入金、流動負債のその他に含まれる未払金の減少による
- ・純資産は、2,795億64百万円と前連結会計年度末に比べ102億63百万円増加  
主に利益剰余金、為替換算調整勘定、非支配株主持分の増加による

◇ キャッシュ・フローの状況

- ・現金及び現金同等物の残高は、604億68百万円と前連結会計年度末に比べ62億34百万円減少  
各キャッシュ・フローの状況  
営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益、減価償却費、売上債権の増加、棚卸資産の増加、仕入債務の増加、法人税等の支払いなどにより133億1百万円の収入  
(前年同期は198億5百万円の収入)  
投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得、無形固定資産の取得による支出などにより75億34百万円の支出  
(前年同期は146億34百万円の支出)  
財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出、配当金の支払いなどにより139億2百万円の支出  
(前年同期は110億13百万円の支出)

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を勘案し、2022年1月11日に公表しました2022年11月期の連結業績予想は、本日（2022年7月7日）発表のとおり修正を行っています。

なお、当該予想数値の修正に関する事項は、同日発表の「2022年11月期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。修正計画の詳細については、「2022年11月期 第2四半期決算補足説明資料」に記載していません。

## 2. 四半期連結財務諸表および主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	58,343	52,185
受取手形及び売掛金	56,875	59,790
有価証券	10,000	10,000
商品及び製品	18,277	19,502
仕掛品	1,369	904
原材料及び貯蔵品	10,419	12,549
その他	2,303	2,697
貸倒引当金	△137	△105
流動資産合計	157,451	157,525
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	157,939	159,311
減価償却累計額	△93,161	△94,560
建物及び構築物（純額）	64,777	64,750
機械装置及び運搬具	149,308	150,188
減価償却累計額	△106,897	△108,972
機械装置及び運搬具（純額）	42,411	41,215
土地	30,850	30,914
建設仮勘定	2,488	2,422
その他	18,060	18,336
減価償却累計額	△12,054	△12,512
その他（純額）	6,005	5,824
有形固定資産合計	146,532	145,127
無形固定資産		
のれん	552	455
その他	12,751	13,914
無形固定資産合計	13,303	14,370
投資その他の資産		
投資有価証券	43,629	43,053
退職給付に係る資産	11,128	12,028
その他	9,078	9,082
貸倒引当金	△120	△119
投資その他の資産合計	63,715	64,044
固定資産合計	223,552	223,543
資産合計	381,003	381,068

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	28,015	30,918
短期借入金	11,591	2,136
未払法人税等	4,182	3,655
引当金	1,528	2,342
その他	25,881	22,508
流動負債合計	71,199	61,561
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	16,356	16,213
退職給付に係る負債	2,750	2,836
資産除去債務	221	223
その他	11,173	10,670
固定負債合計	40,502	39,943
負債合計	111,702	101,504
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	24,104	24,104
資本剰余金	28,632	28,631
利益剰余金	194,015	199,151
自己株式	△5,838	△5,839
株主資本合計	240,913	246,047
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,690	7,948
繰延ヘッジ損益	8	56
為替換算調整勘定	△962	2,361
退職給付に係る調整累計額	△3,008	△2,577
その他の包括利益累計額合計	4,727	7,788
非支配株主持分	23,660	25,728
純資産合計	269,301	279,564
負債純資産合計	381,003	381,068

(2) 四半期連結損益計算書および四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)
売上高	198,879	207,523
売上原価	137,045	144,552
売上総利益	61,833	62,970
販売費及び一般管理費	47,334	48,729
営業利益	14,499	14,241
営業外収益		
受取利息	54	107
受取配当金	207	234
持分法による投資利益	421	439
その他	392	306
営業外収益合計	1,075	1,088
営業外費用		
支払利息	122	123
その他	268	241
営業外費用合計	390	365
経常利益	15,183	14,964
特別利益		
投資有価証券売却益	1	252
固定資産売却益	440	5
関係会社株式売却益	291	—
その他	43	0
特別利益合計	777	258
特別損失		
固定資産除却損	338	482
その他	84	111
特別損失合計	422	593
税金等調整前四半期純利益	15,538	14,628
法人税等	4,786	4,554
四半期純利益	10,751	10,073
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,130	1,184
親会社株主に帰属する四半期純利益	9,621	8,889



(四半期連結包括利益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)
四半期純利益	10,751	10,073
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	161	△730
繰延ヘッジ損益	38	54
為替換算調整勘定	2,435	4,105
退職給付に係る調整額	280	467
持分法適用会社に対する持分相当額	239	252
その他の包括利益合計	3,155	4,149
四半期包括利益	13,907	14,223
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,113	11,949
非支配株主に係る四半期包括利益	1,794	2,273

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	15,538	14,628
減価償却費	7,522	7,857
のれん償却額	99	96
持分法による投資損益(△は益)	△421	△439
引当金の増減額(△は減少)	1,067	685
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△127	85
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	369	△900
受取利息及び受取配当金	△261	△342
支払利息	122	123
投資有価証券売却損益(△は益)	△1	△252
関係会社株式売却損益(△は益)	△291	—
固定資産除売却損益(△は益)	△37	479
売上債権の増減額(△は増加)	△1,640	△2,219
棚卸資産の増減額(△は増加)	△1,233	△2,354
仕入債務の増減額(△は減少)	1,924	2,503
未払金の増減額(△は減少)	△1,103	△1,859
その他	1,718	64
小計	23,243	18,156
利息及び配当金の受取額	426	484
利息の支払額	△126	△121
法人税等の支払額	△3,737	△5,217
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,805	13,301
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△3,692	△5,428
無形固定資産の取得による支出	△2,383	△2,233
投資有価証券の取得による支出	△8	△109
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△8,801	—
短期貸付金の純増減額(△は増加)	23	71
長期貸付けによる支出	△1	△55
長期貸付金の回収による収入	15	63
定期預金の預入による支出	—	△1,038
定期預金の払戻による収入	—	1,141
その他	212	53
投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,634	△7,534
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△116	495
長期借入れによる収入	500	15
長期借入金の返済による支出	△1,142	△10,158
配当金の支払額	△2,860	△3,753
非支配株主への配当金の支払額	△322	△652
自己株式の取得による支出	△7,018	△1
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	—	441
引出制限付預金の引出による収入	271	—
その他	△324	△289
財務活動によるキャッシュ・フロー	△11,013	△13,902
現金及び現金同等物に係る換算差額	973	1,900
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△4,868	△6,234
現金及び現金同等物の期首残高	65,777	66,703
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	47	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	60,955	60,468

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しています。

当社グループでは、商品または製品の国内販売において「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、出荷時から当該商品または製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しています。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しています。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高に与える影響は軽微であり、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、流動負債の引当金科目に表示していた「売上割戻引当金」は、第1四半期連結会計期間から返金負債として流動負債の「その他」に含めて表示しています。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 2020年3月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載していません。

時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項および「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしました。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

## (企業結合等関係)

比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し

2020年11月2日に行われた当社の連結子会社（現持分法適用関連会社）である株式会社キユーソー流通システムとKIAT ANANDA グループ（PT Kiat Ananda Cold Storage、PT Ananda Solusindo、PT Manggala Kiat Ananda および PT Trans Kontainer Solusindo）の企業結合について、前々連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度に確定しました。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、前連結会計年度の連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されています。

この結果、前第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書に与える影響は軽微です。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間（自 2020年12月1日 至 2021年5月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	市販用	業務用	海外	フルーツソリューション	ファインケミカル	共通	合計	調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
売上高									
外部顧客への 売上高	86,016	72,422	24,738	8,624	4,351	2,726	198,879	—	198,879
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	374	2,507	248	87	229	5,452	8,901	△8,901	—
計	86,391	74,930	24,986	8,712	4,580	8,179	207,781	△8,901	198,879
セグメント利益	9,728	2,677	3,706	393	87	645	17,240	△2,740	14,499

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,740百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間（自 2021年12月1日 至 2022年5月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	市販用	業務用	海外	フルーツ ソリューション	ファイン ケミカル	共通	合計	調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
売上高									
顧客との契約から 生じる収益	85,691	75,889	29,819	8,404	5,048	2,670	207,523	—	207,523
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	85,691	75,889	29,819	8,404	5,048	2,670	207,523	—	207,523
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	392	2,451	1,000	108	165	5,870	9,988	△9,988	—
計	86,083	78,340	30,819	8,512	5,213	8,540	217,511	△9,988	207,523
セグメント利益	7,444	4,137	4,097	275	505	673	17,134	△2,892	14,241

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,892百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首より収益認識会計基準等を適用しています。これによる各報告セグメントへの影響は軽微です。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。